

## JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	政策研究大学院大学
研究科名	政策研究科
研究科の特色	<a href="http://www.grips.ac.jp/jp/education/index/">http://www.grips.ac.jp/jp/education/index/</a>
プログラム概要	<p>さまざまな背景を持つ人々を束ねるリーダーシップと、開発学をはじめとする社会科学の専門的知見とを兼ね備えた将来の Leader of leaders を育成する政策学の博士課程プログラムです。講義、試験、論文執筆等すべて英語です。歴史を踏まえ、科学的に情報を収集・分析し、バランスのとれた政策判断をする能力を培うため、政治、経済、歴史の学習と、質の高い博士論文研究の遂行を義務付けています。</p>
「日本の開発経験に関する講義」の概要	<p>“The Making of Modern Japan (Advanced)”</p> <p>この 2 単位の科目は本プログラムの必修科目であり、北岡伸一 JICA 理事長が担当します。本講義は、日本が封建社会から近代国家へと転じた 19 世紀から第 2 次大戦までの時期を対象にして、国内政治と対外政策および東アジアにおける国際関係の変化の間の相互作用に焦点を当てるとともに、日本の近代化に伴う問題や困難を日本の知識層がどのように認識していたかも考察します。日本史の予備知識を持たないさまざまな国々からの学生の参加を歓迎する。講義内容にかかわる現場視察やビデオ上映も行う。英語で行う講義です。</p> <p>“Economic Development of Japan”</p> <p>この 2 単位の科目は本プログラムの推奨科目であり、大野健一教授が担当します。西洋諸国より遅れて経済発展を始めた国々の中で、日本は非常に早い時期にキャッチアップを達成しました。本講義は日本が急速な工業化を経験した明治期から第 2 次大戦後までの時期を対象とし、そのような工業化の背景とプロセスと結果を、経済と政治と社会的な変化の観点から、大量のデータ、視覚教材、学術的な研究成果や論争の要約をもとに考察します。とりわけ、非西洋諸国の中で日本が 19 世紀末に早々と工業化に成果をあげた理由、外国からの影響と国内の能力向上の相互作用、経済・政治・社会の相互作用、民間部門のダイナミズム、公的部門による工業化支援とその誤り等を重視し、学生の質問やコメントに応えつつ、議論を進めてゆきます。</p>
関連 URL	<a href="http://www.grips.ac.jp/g-cube/jp/">http://www.grips.ac.jp/g-cube/jp/</a>
プログラムの魅力紹介	